

第6回鳥井音楽賞に秋山和慶氏
高い評価を集めた多面的指揮活動

毎年わが国のクラシック音楽発展に最も寄与した音楽関係者に贈られる鳥井音楽賞の第6回審査発表会が1月20日、東京のパレスサイドビル9F「レストランアラスカ」で開かれ、東京交響楽団やヴァンクーヴァー交響楽団の音楽監督及常任指揮者として国際的活躍を続ける秋山和慶氏の受賞が決定した。

秋山氏は東京都出身、桐蔭学園卒で現在カナダのノース・ヴァンクーヴァー在住、34才。

この日10時からの審査会は、宮沢縦一、芥川也寸志、木村重雄氏ら10名の審査員出席の下に、各審査員が推薦する個人16名、団体5の候補者対象に選考が開始されたが、例年長時間かかる同審査会としては異例とも言える早い時刻に、秋山氏を選ぶことで全員の意見が一致、この結果は続く理事会で正式承認された。

今回受賞の秋山氏は、10年前存立の危機さえ伝えられた東京交響楽団の支柱的存在として、今日まで同楽団を日本人作品の積極的紹介を含む創造的プログラムと高度の演奏水準によって維持してきた功績に加え、特に昨年度はN響1月定期、東響3月定期、新日フィル5月定期、日唱「フォーレ生誕100年記念演奏会」、ヴァンクーヴァー交響楽団大阪東京公演等の多面的指揮活動を繰り広げており、これらの総合的成果が受賞理由となった。このニュースは直ちにカナダの秋山氏に届けられたが、同氏は国際電話で次のように感想を語った。

「非常に光栄な賞を頂いたものと感激しております。東響は私が指揮者としての第1歩を踏み出した楽団であり、今日自分があるのも東響あってのものと思っています。

海外在住というと特殊に響くかもしれませんが、日本の若い人達も大いに海外へ出、外国の音楽家との交流を深めてもらいたいものです。」

贈賞式の日どりは未定だが、3月末秋山氏が帰国するのを待って行なわれる予定。

なお、鳥井音楽賞は昭和44年サントリー（株）創立70周年を記念して制定されたもので、受賞者には鳥井音楽財団（佐治敬三理事長）から賞状、賞金（100万円）、副賞が贈られる。

（写真説明）

記者発表する鳥井音楽財団佐治敬三理事長
秋山和慶氏

以 上